銀座水族館（七つの海の魚および水産切手）

—31—

三崎出張所　神　原　　勇

マッコウクジラ

分類　鯨目　歯鯨亜目　マッコウクジラ科

学名　*Physter catodon*

英名　Sperm whale

マッコウクジラは垂直に切り上った頭部前面と，体長の3分の1にも達する大きな頭部（眼と胸鰭の付け根の中間から前方にあたる部分をさす），他の鯨類には見られない特異なる下顎，噴気所謂汐吹きは45°斜前方へ約3〜4m吹き上げる等より他の種属より容易に識別される。

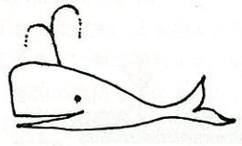
鯨類は大きく分類するとヒゲクジラ類と歯鯨類とに分れ，ナガスクジラ，シロナガスクジラ，イワシクジラは前者に属し，マッコウクジラは後者に属する。本種で最大体長のものは雄で約19m，雌で約17mのものが記録されているが，捕獲されているものの最大は雄で16〜18mで，雌は11〜13mと小型である。

マッコウクジラの大きな特徴となっている下顎には，直径約10cmにもなる大きな歯が両側あわせて40〜56本生えているが，上顎にはこれがはまり込むようなソケットがあって，両者がよくかみあうようになっている。胸鰭は体長の割には小さく団扇（ウチワ）のような形をしている。体色は全体として濃い青味をおびたネズミ色又はグレイで，腹部及び口の周辺はやや淡い。成熟老化するにしたがい，老白化現象が見られる。アメリカのメルヴィルの海の叙事詩「白鯨：モヴィ・ディック」の主人公はマッコウクジラの老鯨とされているが，白子（albino）と思われる白色のマッコウクジラを捕獲した記録もあるので，或いは白子とも考えられるが物語の構成から見れば老成した一匹狼？（離れマッコウ）の老鯨の方がふさわしい。（白子であるならば眼は赤又は淡色でなければならない）

大きな頭部には蠟分を多量に含んだ脳油が前額部にあって体温のあたたかいうちは透明な油脂で常温で白濁する。〔アメリカの19世紀の捕鯨業者は脳油を精液と考えていたので，英名はそのものずばりである。〕この脳油は人間の頭骨の外側にあたるオデコのところにあって，脳そのものは小さく頭のすみの方にある。脳油の機能は現在のところはっきりと解明されておらず，窒素を良く吸収する（血液の6倍以上）ところから，他のクジラ類より一層深い潜水と密接なる関係があるものと考えられている。このほか他のクジラ類よりも皮膚が15〜20cmと厚いうえに，結締組織が多く混じった固い皮膚である事などより深潜水に役立っているものと思われる。

ジブラルタル海峡附近で海底電線敷設船がケーブルの修理の際，約 2,200mの深度でケーブルに捲きついた本種を引き上げた記録がある。これは海底を索餌中下顎がケーブルにふれ更に尾の付け根にまきついて斃死したものと考えられる。

食性は主食がイカ類でタコはあまりとらないようである。胃内容物から小児の頭大のイカの嘴（カラストンビ）が見られる事があるが，これは深海のダイオウイカ（体長10mに達するものあり）のもので，マッコウクジラの口の周辺にはこれと格闘した直径5〜6cmの吸盤の跡を見受けることもある。魚類も可成り食べているが，サバ，イワシ等の表層性の群游魚はあまりとらず，底棲のタラ，ホッケ等が多い。南氷洋では体長2mのナンピョウヨウイシナギを捕食していることが報告されている。



マツコウクジラ

分類　：鯨目　歯鯨亜目　マツコウクジラ科

学名　：Physeter catodon

英名　：Sperm whale

北氷洋ヲ除ク全海域ニ分布・回游スル、高緯度ニ回游スルノハ雄デ、雌ハ40度附近マデシカ回游シナイ。脳油ヲ持ツ巨大ナ頭部ハ長矩形デ体長ノ1/3ヲ占メル、下顎ハ細長ク幅ガセマク20〜28本ノ歯ガ生エテイテ、上顎ニハコレヲ受止メルソケット状ノモノガアル他痕跡歯ガアル。胸鰭ハ小サク背鰭ガ尾鰭ニカケテ一段ト高マッタ部分ガアル、肛門ノスグ後方ニハ顕著ナ皮膚ノ隆起ガアル。体長ハ18m位ニ達スルガ雄ノ方ガ大キイ。体色ハ全身灰色デ灰青色ヤ灰褐色ノモノモアル。体色ハ年令ト共ニ白色化スル。主食ハイカ類デソノ他底棲魚類ヲモ捕食スル。噴気ハ斜前方45°方向ニ吹キ上ゲ、ソノ高サハ3〜4mデアル。

豪領南極 -1973-

ニュージランド -1956-

南ジョージア -1963-

サンピエルミクロン -1969-

南ジョージア 1971-